浄土真宗本弘寺婦人会だより

平成１３年８月　　第１１号

『お盆をお迎えして』

先日、１０数人お集まりの席でしたが、そろそろお盆が来るが、みんなどんな気持ちで墓参りをするのかと言うことが話題になりました。思い思いの考えが出されましたが、要約しますと、
１：先祖の霊を慰めるためと言う考えの人。
２：親不孝であった事を詫びる気持ちと言う人。
３：自分の現状を報告し、これからも家族の幸せを守ってくださいと祈る人。
だいたいこの３通りでありました。
７月のお盆でお参りさせていただいたお宅で、この話をいたしますと、そこのご主人が「私はそんな気持ちを持ったことが無い。」と言う。
「私は墓参りをしないと何か罰が当たるような気がしてそれで参るんです。」と言われる。何か分かる気もするし、そう言う方が多いかもしれませんね。と話しながら、その方に申しました。
親や先祖は貴方が墓参りをしようとしまいと、たとえ墓石を蹴飛ばそうと、貴方に罰なんか当てませんよ。
罰どころか、何をされても守りどうしなのが、幸せになってくれよと願いどうしなのが、親じゃないですか。と話すと、そこに居合わせた人達がなるほどなるほどとうなずいて、そこから様々な質問が出てきました。まず出たのが、
“お盆は迎え火を焚いて仏様は家に来ているのだから墓参りはおかしいのでは？”
と言う質問でした。
私達、浄土真宗の門徒はお浄土へ生まれるのです。お浄土は大変美しく、綺麗で、苦しみのまったく無い世界です。そんな素晴らしい所からこんな汚れた火宅無常な世界に戻る気がしますかね？
私はお浄土へ往かれた先祖をこんな汚れた悩みの多い所へ迎える気にはなれません。
ですから浄土真宗では迎え火を焚くと言うことはしないのです。と話をさせていただいたことです。
皆様も仏法聴聞の中に、ご一考されてはいかがでしょうか。

合掌
本弘寺住職

読　者　の　広　場

「生涯に一度の傳燈式に参詣して」

梅雨のはしりに良い天気に恵まれ、思いがけなくも六月一日は本山東本願寺に参詣できました。浄土真宗東本願寺派本山東本願寺の御認証を受けられましたお喜びと法主継承の第二十六世御法主大谷光見さまの傳燈奉告法要ができましたこと、心よりお慶び申し上げます。
式典は厳かに本山執行部総代の方々、また全国からご参集されましたご住職さま方のご参列に、北は北海道から南は九州からと、大勢の信徒の皆様の集いに圧倒されました。
読経も荘厳で会場が一体となって正信偈の波に包まれました。
また、庭儀には雅楽が入り、行列のあとからは、お稚児さんが親に手を引かれて、仏さまに両手をあわせてお詣りする姿がなんとも微笑ましく見えました。そして会場内には雅楽の笙（しょう）の音色が醸し出す優雅な空気に包まれ、一時のすばらしい世界に入っていった気心地に一層の喜びを感じさせられました。
御法主さまの御親教（御法話）で、伝統ある仏教の教えの中にいつも生かされているんだと教えられました。
婦人会での住職さまのご法話で正信偈の心について聞かせていただいております。とても難しいです。ですが、重ねていくうちに遅々とはしていますが学ばせていただけることを今は楽しく思うようになりました。少しでも多く聴聞させていただこうと思っています。

中野　美代子

「夏の川に母を想う」

夏になるといつも思い出すことがあります。東京で戦災にあい、両親の実家のある福井に疎開して住んでいた頃は、学校にもプールは無くて、夏休みには近くの日野川へ泳ぎに行っていました。友達と着替えの下着だけを持って泳ぎに行くのです。
カンカン照りの草いきれのする雑草の間をぬって、熱く焼けた川原へ下りて水に飛び込む。泳ぎ方も自然に覚えた犬掻きで泳ぐのです。顔も前か後ろか分からないくらい日に焼けて、お天気の日は毎日のように泳ぎに行っていたように思います。楽しくって、みんなが帰った後も従姉妹とのんびりと泳いで帰った時に母にものすごく怒られました。
「もう泳ぎに行ってはいけない。」と言われた何日か後に、母の姿が見えないと思って、そっと家を抜け出したときに見つかり、その時の母の怖かったこと、そばの小川に連れて行かれ、そんなに泳ぎたかったらと、水に顔を浸けられ、「ごめんなさい、ごめんなさい」と夢中で謝りました。でも、なぜ私だけ泳ぎに行ってはいけないのか母をとっても恨めしく思いました。
母も亡くなり、自分も親になって、子育てを重ねる中で、その時の母の心配の大きかったことが分かった気がします。福井へ行って泳げなくなった川を見ると、何十年か前に子供たちが嬉々として泳いでいた姿が目に浮かびます。それと母に叱られたことが、せつなく、また懐かしく思い出されます。

滝井　江子